

研究課題名	胸郭出口症候群の病態解明と診断法の確立
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 教授 堀江 信貴
研究期間	実施許可日 ～ 2026年12月31日
対象者	2014年1月から2026年3月の間に、広島大学病院脳神経外科で胸郭出口症候群に対して治療を受けられた患者さん
意義・目的	<p>胸郭出口症候群は、腕神経叢、及び鎖骨下動静脈が圧迫されて引き起こされる一連の症候の総称です。腕神経叢が圧迫されるタイプを神経原性、鎖骨下動静脈が圧迫されるタイプを血管性と分類されますが、神経原性の胸郭出口症候群は診断が難しく、診断法が確立していません。胸郭出口症候群の9割以上を神経原性が占めると言われていますが、診断法が確立していないため、しばしば診断が遅れ、多くの患者さんが困っておられます。</p> <p>本研究では、神経原性の胸郭出口症候群の診断法を確立し、その病態解明に迫ることが目的です。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は病歴、年齢、身長、体重、性別、血液検査、画像所見、病理所見、機能評価・QOL 評価結果です。</p> <p>また、手術時に切除した筋組織を用いて免疫学的染色及び発現解析を行います。</p> <p>取得した試料や試料・情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を用い、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p>
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	なし
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>T e l : 082-257-5227</p> <p>広島大学病院脳神経外科 クリニカルスタッフ 清水 陽元</p> <p>広島大学病院脳神経外科 講師 武田 正明</p>

研究機関：広島大学